

課題番号：2020-414

Tertiary lymphoid structure と卵巣がん化学療法の奏効との相関関係を調査する後方視研究

1. 研究の対象

2017年4月1日から2020年3月31日の期間に当院で手術もしくは生検を受けられ、卵巣・卵管・腹膜がんの治療を受けられた方。

2. 研究目的・方法

卵巣がんにおいて、TLSが化学療法の治療効果および生存の予後因子となるかを明らかにする。さらにTLSが化学療法による治療効果の予測因子となりうるか検討する。方法は下記3.に記載した情報および試料を解析する。

研究期間は研究許可日から2026年03月31日までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、病歴、血液や画像検査結果、抗がん剤治療の治療歴と効果等

試料：手術もしくは生検で摘出した組織

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究事務局

仲尾岳大

国立がん研究センター東病院 先端医療科/乳腺・腫瘍内科

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

Tel. 04-7133-1111

Fax. 04-7131-4724

E-mail: tnakao@east.ncc.go.jp

Tertiary lymphoid structure (TLS)と卵巣がん化学療法の奏効との相関関係を調査する後方視研究

研究責任者：

原野謙一

国立がん研究センター東病院 先端医療科/乳腺・腫瘍内科

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

Tel.04-7133-1111

Fax.04-7131-4724

E-mail: kharano@east.ncc.go.jp

研究概要の公開文書作成 1.0 版 2020 年 10 月 20 日

研究概要の公開文書改訂 1.1 版 2020 年 12 月 16 日

研究概要の公開文書改訂 1.2 版 2025 年 02 月 06 日